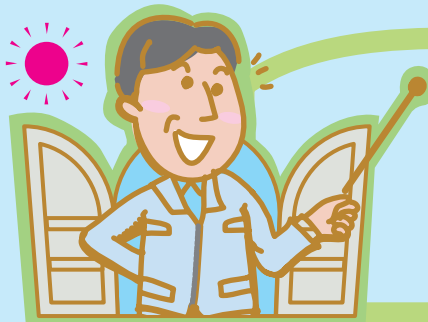




緑肥・緑化の部屋 26

～環境保全の実践を目指して～

タキイ種苗(株) 営業部 緑化飼料課

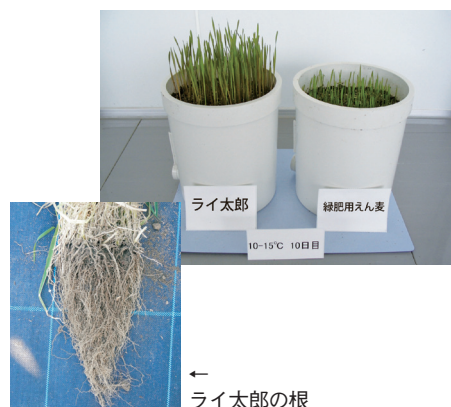
Q

毎年秋にえん麦「ネグサレタイジ」を播種していましたが、今年はまく機会を逃してしまいました。えん麦がまけないような低温下でも、播種が可能な緑肥はありますか？

A

一般的に、らい麦は低温でも播種できる種類ですが、その中でも「ライ太郎」が特におすすめです。「ライ太郎」は市販のらい麦の中でも最も早生の品種で、いつまでもそれなりに生育してくれるので、別名「時無しらい麦」ともいわれています。

熊本県で行われた試験では、1月27日の気温が2.6℃の時にまいた場合、2月14日に発芽し、4月15日に出穂しています。関東の標高約1,000mでの試験では、9月末にえん麦をまいても少ししか生育しませんが、同じ条件で「ライ太郎」をまくと、草丈で約1.4倍、収量は約1.6倍で生育しています。



■えん麦とライ太郎の播種日別生育比較

播種日	9月7日		9月17日		9月28日	
	緑肥用えん麦	ライ太郎	緑肥用えん麦	ライ太郎	緑肥用えん麦	ライ太郎
草丈 (cm)	60.3	84.9	39.8	55.0	26.3	36.3
草丈比率 (ライ太郎/えん麦)	1.4		1.4		1.4	
生重量 (kg/10a)	1,957	2,123	1,265	1,955	929	1,442
生育量比率 (ライ太郎/えん麦)	1.1		1.5		1.6	

■ライ太郎の発芽・出穂特性 ('96～'97 農水省九州沖縄農業研究センター)

播種日	播種時 平均気温	発芽日	発芽までの		出穂期	出穂までの	
			日数	積算気温		日数	積算気温
4月30日	14.5℃	5月3日	3	55℃	6月3日	34	649℃
5月27日	20.7	5月29日	2	40	6月21日	25	564
6月24日	24.7	6月27日	3	74	7月24日	30	779
10月4日	18.2	10月8日	4	73	3月22日	169	1,530
11月26日	8.9	12月9日	13	70	3月30日	124	793
1月27日	2.6	2月14日	18	128	4月15日	78	783
2月24日	3.4	3月3日	7	81	4月22日	57	805
3月25日	9.9	3月31日	6	61	5月8日	44	665

低温条件下でも発芽、生育できる。

らい麦 ライ太郎

〈特長〉 ●発芽が早く、初期生育が非常に旺盛で短期間の緑肥に最適。
●根の密度が高く、土壌を細かくする効果が高い。

〈播種期〉 ●中間・暖地：3～5月、8月中旬～11月
●冷涼地：4月中旬～9月上旬

〈播種量〉 10a当たり 8～10kg